

# 丹沢ボラネット瓦版

2025年11月号 No.124



丹沢山塊の核心部（塔ノ岳付近から）

## 令和7年度丹沢大山ボランティアネットワーク講演会・交流会

9月13日、自然環境保全センターにて、講演会・交流会を開催しました。

今年度は、午前中の講演会に続いて、昼食をとりながらの団体紹介・交流会を行い、午後は同センターの自然観察園（野外施設）等で自然観察会を計画しました。また、参加者の交流のため、団体名とお名前（ニックネーム可）を書いた名札を付けていただきました。

講演会には、ボラネット各団体など32名が、また、交流会と観察会には、29名が参加。厳しい残暑が前日から少し緩んで、前日から断続的に小雨降る天気でしたが、午後の観察会も雨に降られることなく、予定通りに行うことができました。

## 講演「丹沢の成り立ちと地質的特徴」

県立生命の星・地球博物館学芸員で、企画情報部企画普及課長の山下浩之さんを講師にお迎えし、丹沢の成り立ちと地質的特徴というテーマでご講演いただきました。

山下さんは、主に岩石のでき方に関する調査や研究を行っており、箱根、伊豆、丹沢から南フィリピン海の深海底などをフィールドに調査活動を行っています。また、お城の石垣など石造りの歴史的な建造物を岩石学的に解析し、どこの火山から運ばれてきたものなのか、といった研究も行っています。



山下浩之さんによる講演

講演では、丹沢の活断層等を観察した写真や動画を交え、最新の研究成果を解りやすく知らせて頂きました。

最初に、丹沢の成り立ちにも大きく関係する「プレートテクトニクス」についてお話がありました。

大きな地震のニュース等で耳にすることがあるプレートテクトニクス。地球の表面を覆う十数枚の薄い板をプレートといい、これが海嶺と呼ばれるところから生まれ、海溝と呼ばれる溝で他のプレートの下に沈み込みます。日本は、狭い国土が複数のプレートから構成され、特に列島の南とさらに東からそれぞれ別のプレートが沈み込むという世界的にも珍しい地域とのことです。

海溝で沈み込んだプレートは深さ100kmに達するとマグマを生成し、地上には火山が列状に生まれます。プレートの動きが丹沢の複雑な地形や多様な地質を生んだといえそうです。



動画紹介（足柄層群）

次に、岩石を、その成り立ちから大きく3つに分類し、それぞれの特徴などについて説明がありました。砂や泥、火山灰や生物遺骸が堆積した堆積岩、マグマが固まった火成岩、堆積岩や火成岩が熱や圧力で姿を変えた変成岩があり、これらは、それぞれ長い時間のなかで、ある岩が溶けてマグマになって冷えれば火成岩になり、ある岩が風化して粒上になって海に堆積すれば堆積岩になり、といった形で「循環」(岩石循環)しているとのこと。

丹沢は、その複雑な成り立ちから、これら3種類の岩石のそれぞれについて、成分や成り立ちなどが異なる複数の岩石を観察することが出来るそうですが、丹沢を特徴づける岩石として3つの岩が紹介されました。

もっとも多い岩が、グリーンタフに代表される凝灰岩で、火山灰が海底に積もってできたものが隆起して陸上に現れたものです。緑色以外にもももとの火山灰の色の違いから様々な色のものがあるようです。

2つ目は、変成岩で、大理石など数種類が見られます。丹沢の変成岩は、若い岩石にマグマが影響してできた、世界的にも最も新しい部類の変成岩だそうです。

3つ目は、西丹沢の河原などでよくみられるトータル岩です。理科の授業でも習う「ゴマ塩模様」の花崗岩の仲間ですが、一般的な花崗岩とは鉱物が異なり、丹沢を特徴づける岩石です。日本地質学会が、「神奈川県産の岩石」としてトータル岩を選定しています。

続いて丹沢の生い立ちのお話に移ります。

プレートの移動に伴って丹沢が本州に衝突したのが550万年前とのこと。それよりはるか前の1700万年前から850万年前まで、海の中に堆積したものに由来したものが丹沢の堆積岩の材料で、サンゴや貝や火山活動に起因するものが観察できるそうです。

丹沢と本州の衝突後、丹沢の地下にマグマが入り込み、これらが冷えて火成岩ができ、堆積岩を変成させて変成岩が生まれ、さらに伊豆半島の衝突(250万年前から100万年前)により丹沢山地は激しく隆起し、その後、雨等による浸食を受けて今の姿になったとのこと。



岩石標本



標本を囲む参加者

その後もプレートの沈み込みで大磯丘陵が出来たことで南側に流れる河川の流路が変わっています。また、山北町皆瀬川ではプレート境界にあたる断層を現地で観察することができます。

ちなみに、神奈川県で最も古い地層は丹沢のさらに北～北東側にある小仏層群などの地層で、1億年から3千万年前のものとのこと。

想像も及ばない長いスケールのお話で気が遠くなりそうですが、多様な丹沢の岩石のなかには資源となったものもあり、良質な砥石であった戸川砥や、建築や石造物などに使われた七沢石などがあります。

山下さんには、会場には様々な岩石を用意していただき、休憩時間や講演後には標本を囲んで、講師に質問をする様子も見られました。

## 交流会・自然観察会

昼休みを兼ね、昼食をとりながら、参加団体の紹介を行いました。それぞれ、団体の個性が伝わる発表でした。

午後の自然観察会では、かながわフィールドスタッフクラブの小松講師、横山講師、小林講師、小野講師の4つの班に分かれて、センター周辺と自然観察園、池、等を観察しました。

植物や動物の名前を知ることながら、お互いに会話をしながら、見る、嗅ぐ、触る等五感を大切にする観察会でした。

雨上がりでしたので、ヤマビルがたくさん活発に活動しており、少し気をそがれる面もあり、刺された方もいたようですが、充実した、記念に残る観察会となりました。



交流会の様子



観察会講師紹介、出発！



自然観察会



自然観察会の参加者で記念撮影

## 参加者の声

参加された皆さんからの声をご紹介します。

- ・地学的に見て丹沢が魅力的な場所だということが分かった。丹沢は外国人も含めて県外からの登山者が多いので、このような魅力を知っていただく機会になるとよい。
- ・新しい研究成果を紹介して頂き満足した良い講演会でした。
- ・登山では山にしかない珍しい植物を見に行くことが多いが、身近な里山でも様々な生き物がいて自然観察を楽しむことができることが分かった。
- ・どの団体も高齢化が進み活力がなくなっていく、それぞれの団体の特徴を生かした交流ができるとよい。

# 第26回丹沢大山自然再生委員会総会への参加報告

丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会



↑写真 総会の様子

## 第26回丹沢大山自然再生委員会総会

日時：令和7年度7月3日(木)

13:00～16:00

会場：神奈川中小企業センタービル

14階 多目的ホール

### 1 議案

第1号議案 令和6年度事業報告

第2号議案 令和6年度決算報告

第3号議案 令和6年度監査報告

第4号議案 役員・幹事・監事の改選

第5号議案 令和7年度事業計画(案)

第6号議案 令和7年度予算(案)

第7号議案 令和7年度丹沢大山自然再生活動報告会について



↑調査専門部会の活動報告の様子

**第1号議案～第7号議案のすべては全会一致で可決されました。**

第4号議案について(県民事業部会長の交代)

小林氏(丹沢大山ボラネット)から

→ 滝澤氏(かながわ森林インストラクターの会)への交代

第7号議案について(内容等は今後、検討修正されていきます)

今年度の自然再生活動報告会はさがみ自然フォーラム(NPO 法人神奈川県自然保護協会・厚木市)と連携して開催する。

日時:令和8年2月15日(日) 午後(予定)

会場:アミューあつぎ ※さがみ自然フォーラムの会場と同じ建物内  
オンライン併用を検討している。

共催:神奈川県、厚木市、さがみ自然フォーラム運営委員会

ねらい:ネイチャーポジティブの流れを背景とした、地域生態系の把握、  
自然災害とNbS、次世代育成等を考える事

内容:地域の取り組みに関する報告、テーマに関連した講演、  
パネルディスカッション等

## 2 報告事項

(1) 専門部会からの報告

ア 事業計画・評価専門部会  
の活動報告

第49回、第50回、第51回  
部会をオンライン会議等で行な  
った。

内容は助成金研究成果発  
表会や丹沢大山自然再生基  
本構想等の改訂について検討  
した。



↑ワールドフェスタ横浜 2024の様子

イ 県民事業専門部会の活動  
報告

啓発検討チーム等で丹沢まつ  
り、ワールドフェスタ横浜 2025、  
厚木環境フェア等の出店計画  
や副読本「私たちの暮らしと丹  
沢」の改訂内容検討を行った。

→丹沢まつりの様子



## ウ 調査専門部会の活動報告

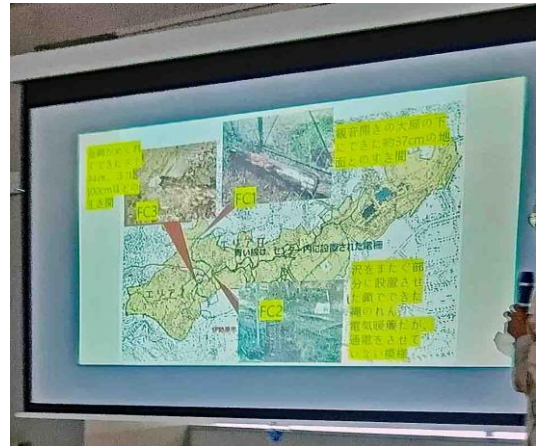
### 助成研究課題の二研究報告

#### ① 野生動物救護の会

電気柵によって隔てられた二つのエリアに生息する野生動物の痕跡調査と自動撮影カメラを用いた観察の中間報告をした。

→写真

野生動物救護の会の発表スライド



#### ② 神奈川工科大学カゲロウ DNA 研究会

シロタニガワカゲロウ2系統の分布状況の解明を報告した。

## 3 次期「丹沢大山自然再生計画」に向けた意見書への班討論

一班 次期計画における自然再生の方向性について(総論)

ワークショップ的方法を取り入れ討論をした。

二班 次期計画の具体的方策について(各論)

① ブナ林の再生

② 地域の再生

等の話し合いをした。

「討論時間が短かった」ように感じられた。

→写真 班討論の様子



## 感想

最近ネイチャーポジティブや NbS 等聞き慣れない言葉が出てきて戸惑っているが刺激になりました。

全国のクマ騒動に見られるように、生物の多様性、豊かな自然、人間生活との共存等大切な問題が含まれています。力を合わせ、英知を出し合い取り組みたいです。内容のある充実した良い総会でした。

## 丹沢大山ボランティアネットワーク団体からの投稿

### 神奈川県勤労者山岳連盟 2025年第46回丹沢クリーンハイク 大野山(リベンジ)クリーンハイクレポート

神奈川県勤労者山岳連盟

- ◇日時：10月19日(日)
- ◇参加者：神奈川県勤労者山岳連盟  
自然保護委員会5名、小田原ナー  
ゲル山の会11名の計16名



- ◇山行概要；  
JR松田駅08:00集合  
⇒(ナーゲル会員乗用車に分乗)  
⇒つぶらの公園08:25着  
準備完了後A・B2コースに分かれクリーンハイク開始8:50  
→(BコースはNPO共和のもりへ車で移動し、そこからスタート)  
→山頂到着10:40~11:00(四阿にて雨宿りを兼ね昼食休憩)  
→山頂周辺のゴミ拾い後下山開始11:20  
→つぶらの公園13:15頃着、計量・写真撮影後13:35頃解散  
⇒JR松田駅14:00頃着

- ◇成果；可燃ごみ8,8kg、不燃ごみ(古タイヤ6kg含め)11,7kg

今年の県連主催第46回丹沢クリーンハイクは、残念ながら悪天予報のため中止となってしまった。そこで、クリーンハイク担当のI氏中心に当会単独でリベンジクリーンハイクをやろうという企画が持ち上がり、夏ごろから計画を温めてきた。開催直前、I氏が腰を痛めて参加できなくなるというアクシデントが発生したが、準備はほぼ整っていたので事務局が担当を代行し実施することになった。



当日の天気予報はとても微妙で一時的な降雨は避けられそうもなかった。中止にしてもおかしくなかったが、コース上に危険箇所がないこと、帰り道は舗装された車道歩きが多く傘をさせること、そしてなによりもリベンジハイクも中止になってしまうのは避けたいという強い思いがあって実施を決断した。

県連自然保護委員会のメンバー5名が参加していただけることになっていたの  
で、当会参加予定者を合わせると10名以上の大人数になる。そこで、従来  
の谷峨側からのコースの他に山北側からの地蔵岩コースを新設してA・Bの2  
コースで大野山メイン登山道のほぼ全てを網羅できるようにした。事前に参加  
者をA・Bコースどちらかに振り分け、それぞれ8人ずつになるようにしてスタート。  
その時点ではまだ晴れていて富士山の裾野も見えていたが、登り始めるにつれ  
西の空が雲に覆われてきて、両チームが山頂に着いたとほぼ同時に雨が降り出  
した。山頂には大きな四阿があったので、そこで雨宿りを兼ね早めの昼食休憩  
を摂った。小降りになったのを見計らって、山頂広場のゴミ拾いを実施した後、  
皆一緒に車道を辿ってつぶらの公園への帰路に就いた。標高を下げるにつれ  
雨も上がり視界も開け快適に歩けるよ  
うになった。



毎度のことだが、ハイカーのマナーは良  
くなってきていると感じる。故意に捨て  
たゴミは少なく、うっかり落としてしまったと推測される小片ゴミが多い。一方、山  
頂付近まで車で来た人達のマナーは残念ながら良いとは言えない。一部の人  
達だけであろうが吸い殻のポイ捨てや空き缶の投げ捨て等がまだまだ無くならな  
い。16人の目が光っているので、さすがにゴミを見過ごすことは少なく、公園に  
戻って自然保護委員会の方に重量を測定してもらおうと、可燃・不燃ゴミ合計  
で20kg超の収穫があった。

本会を開催するにあたり、自然保護委員会からクリアファイル、缶バッチ、緊  
急用ホイッスルを頂いた。この場を借りて御礼致します。また、お互いに交流を  
深められ有意義なクリーンハイクになったと思っています。参加者全員の協力と  
尽力に感謝いたします。

小田原ナーゲルの会事務局長 菊地記

丹沢ポラネット瓦版 2025年11月号(通巻124号)11月27日発行  
丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五